

施策評価調書(23年度実績)

施策コード | I-2-(2)

政策体系	施策名	高齢者が安心して暮らせる地域づくり	所管部局名	福祉保健部	長期総合計画頁	35
	政策名	高齢者の元気づくりと新たな支え合いづくり	関係部局名	福祉保健部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	地域全体で支える在宅生活への支援	介護サービス基盤の充実	認知症高齢者対策の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		23年度			24年度	27年度	目標達成度(%)					
		年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125	
i	小規模多機能型居宅介護事業所の設置されている日常生活圏域数(か所)	②	H22	28	32	29	90.6%	37	50					
ii	認知症サポーター数(人)	③	H22	23,087	26,587	29,471	110.8%	30,087	40,000					

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	概ね達成	高齢者が介護を要するようになっても、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、小規模多機能型居宅介護事業所などの地域密着型サービスの整備を、指定権者である市町村が主体となって推進し、目標値を概ね達成した。	達成
ii	達成	認知症に関する理解の促進を目的とした講演会の開催などの普及・啓発活動を通じ、市町村等が行う認知症サポーターの養成を支援したことにより、目標値を達成した。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組No.	評価
①	・県内3市、5か所において、地域包括支援センターと地域が連携し、一人暮らし高齢者の地域での見守り体制の構築を図った。 ・要介護高齢者等のいる世帯の住宅設備の改善に対して助成を行い、在宅生活の継続、負担軽減を図った。(助成件数128件)
②	・豊の国ゴールドプラン21や市町村計画に基づき、特別養護老人ホームは253床、小規模特養及び認知症高齢者グループホームについては334床整備する等介護サービス基盤整備を促進した。
③	・認知症高齢者の介護に関する知識や技術等の各種研修を10回実施し、介護サービスの質の向上や認知症に対する県民理解の促進を図った。

【V. 施策を構成する主要事業の評価】

取組No.	事業名	事務事業評価		事業コスト (千円)
		総合評価	掲載頁	
①	1 ひとり暮らし高齢者安心ネットワーク構築事業	現状維持	43	37,040
	2 在宅高齢者住宅改造助成事業	見直し(24年度)事業内容の変更	—	17,992
②	1 介護基盤緊急整備事業	終了(24年度)	44	1,566,536
	2 老人福祉施設整備事業	現状維持	—	173,840
	3 ホームヘルパー等助成事業	現状維持	—	1,472
③	1 認知症高齢者対策事業	現状維持	—	12,862

【VI. 主な取り組みの進捗状況・今後の課題】

進捗状況	取組No.①～③の全てにおいて、概ね順調に進んでいる。	
今後の課題	・高齢者が住み慣れた地域で継続して生活できるよう、必要なサービスを一体化して提供する地域包括ケアシステムの構築 ・豊の国ゴールドプラン21に基づく、計画的な介護サービス基盤の整備	・認知症疾患の早期発見と重症化予防、適切な医療・ケアの提供、関係機関の連携等総合的に地域で取り組む体制の構築

【VII. 施策に対する意見・提言】

○「安心・活カ・発展プラン2005」中間見直し策定委員会(H23.6) ・団塊の世代が65歳、75歳を迎える2015年、2025年を視野に入れた取り組みが必要。

【VIII. 今後の施策展開について】

今後の方向性	施策展開の具体的内容
拡充	・地域包括ケアシステムの構築については、現在3市をモデル市として推進しているが、モデル市以外への事業拡充を検討する。 ・施設の整備にあたっては、多床室に対する地域のニーズ等も勘案しながら、個室のユニット化を促進する。 ・地域での認知症疾患対策の充実を図るため、認知症の初期段階から認知症の人や家族を支援する体制の整備を検討する。